

2011 年度 海鳥調査 中間報告

知床海鳥研究会 福田 佳弘

今回は、海鳥海上センサス調査は、調査期間中ということもありケイマフリ調査に絞って報告する。ケイマフリ海上分布調査は、5月6日から調査を開始した。最大カウント数は6月17日の142羽であった。6月9日にイカナゴをくわえ巣に入る個体を確認し、8月9日まで餌運びを観察した。

図・1) 2011年のケイマフリ個体数

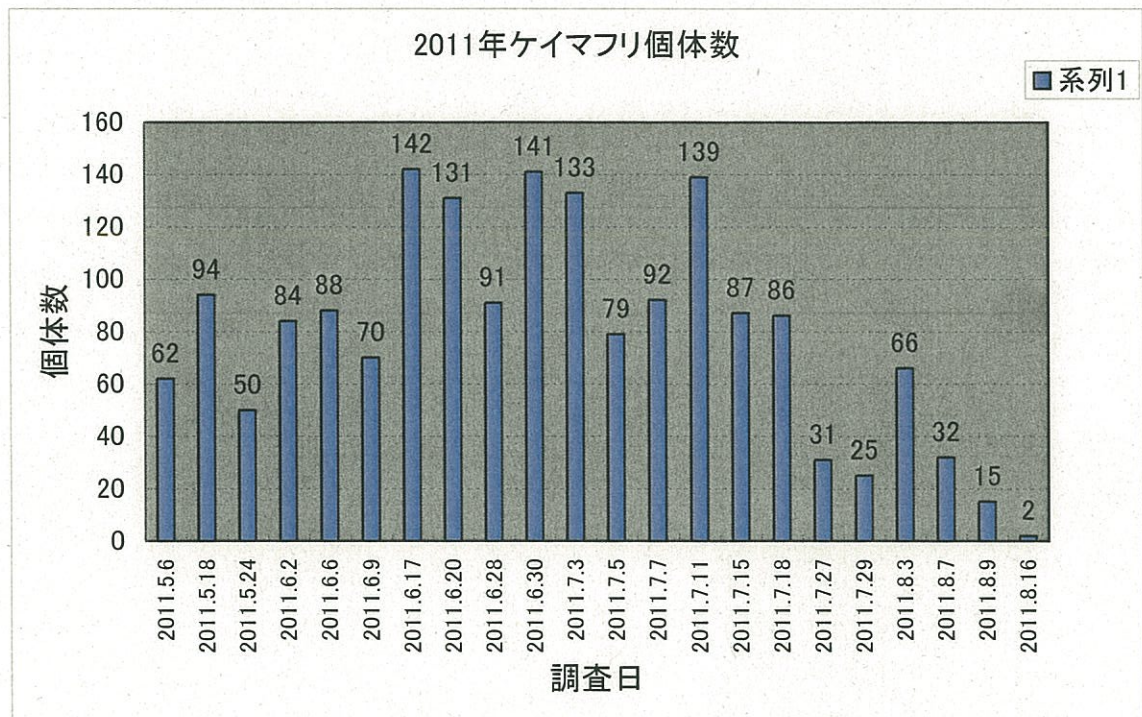
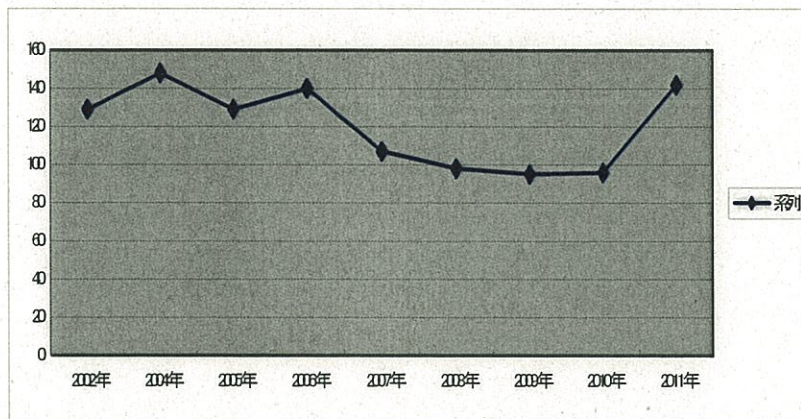


表-1) 2002年からのケイマフリ最高羽数

年	202	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011
個体数	129	148	129	140	107	98	95	96	142

図-2) 2002 年からのケイマフリ最高羽数の経年変化



今年度は、2004 年以降で最高羽数が最も多い 142 羽であった。なぜ、数が増えたかについては不明である。今後解析を行い要因について探りたい。

ケイマフリのデコイ設置後について

5 月 18 日にケイマフリのデコイをトークシモイに設置した。

6 月 9 日にイカナゴをくわえ岩穴に入る個体を確認した。

ケイマフリの抱卵期間は約 30 日であり、デコイ設置は 5 月 18 日で 6 月 9 日にヒナへの餌運びを確認したことから、デコイ設置以前から抱卵をしていたと考えられる。

図-3) ケイマフリのデコイ設置地点と営巣岩穴の位置関係



今年度は、ケイマフリの繁殖生態を観察するためのビデオ撮影（家庭用 HDD ビデオ）利用して試験的に行った。トークシモイのデコイ設置地点周辺においてビデオの録画時間や倍率などの性能を試した。この場所は警戒心の強いケイマフリには、観察者の存在で巣への出入りを警戒する恐れがあったためビデオで撮影が有用であると判断して調査した。6月30日・7月3日・7月5日に約6時間程度撮影したが、上記の画像の1巣のみで、それ以外の場所での巣へ岩穴への出入りは観察されなかった。しかし、ビデオの性能的には十分調査に対応できるものであった。来年度もこの場所にビデオを設置しデコイの効果や周辺の営巣状況を観察したいと考える。

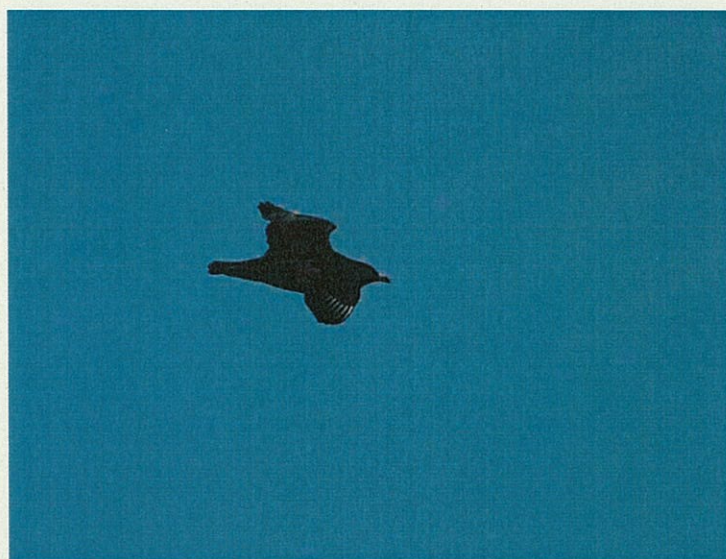
来年度以降の調査計画案

ケイマフリ生息海域分布・繁殖分布調査、海鳥繁殖状況調査、ケイマフリ採食食性調査、海鳥海上ラインセンサスなどのモニタリング調査を行う。

デコイの設置について、今年度は、トークシモイに1基（2羽）であったが、かなり目立ちにくく同じ地点に複数設置することが望ましいと考える。また観光船やカヌー用のガイドのためのデコイを設置してはどうかと考える。

これは、どこまで環境省の業務として認められるかは解らないが、今後ケイマフリの生態研究を行いたいと考える。例えばヒナへの給仕頻度など徐々に生態解明も行いたい。

トピックス



本日、10月5日のおーろら硫黄山航路に出現したオオトウゾクカモメ
知床ウトロ側では珍しい海鳥です。